

MITA

■ 温故知新

東京のスニーカーカルチャーと関わりが深いAF1の中でも、世界的にも最も有名なカラーウェイのひとつが、mita sneakersが2004年に提案した“温故知新”だ。海外にはシンプルに“MITA”と呼ばれ、トゥガードに配されたオーストリッチ柄の型押しレザーなど、過去に発売されたAF1のマテリアルをインプットした1足である。発売時には関係者向けに色違いの“温故知新”が製作されて話題を集めており、その色違いパターンを再現したローカットのDUNKが2017年に“温故知新”のニックネームと共に復活。この年のトピックモデルとなった。“温故知新”カラーを採用するAF1は2006年にも発売されているが、海外では2004年モデルに対して“UN MITA(ミタではない)”と呼ばれている。海外のスニーカーヘッズにとっても、2004年の“温故知新”は特別な存在なのだ。



Release year : 2004
AIR FORCE 1
Style Code : 307334-001
資料提供 : yusuke_airforce1

SAKURA “UENO” PROMO

■ 桜“上野”プロモーションサンプル

明るいベージュのアップパーに、レーザー加工で桜の花を描いたSAKURA “UENO”は、2005年にmita sneakersが提案し、国内外で活躍するアーティストであるSNEAKER WOLFがデザインを手掛けた日本生まれのAF1。日本のスニーカーカルチャーが育んだ感性を世界に認めさせた特別なプロダクトだ。ここで紹介するプロモーションサンプルは、発売時に関係者向けに配られた非売品。その全てにシリアルナンバーが与えられ、世界中のAF1ファン垂涎の的になっている。上野地区のスニーカーショップで一般発売されたバージョンとは異なり、アップパーが1枚革のワンピースディテールを採用。ヒールサイドに刺しゅうされる“UENO”の文字も、通常のブラックからゴールドに変更されている。



Release year : 2005
AIR FORCE 1
Style Code : NO DATA
資料提供 : Alternate Sneakers

ATMOS

■ アトモス

2001年5月26日にatmosで先行販売されたジョージタウン大学“HOYAS”カラーのAF1も、2001年のCO.JPを代表するプロダクトだ。atmos専売モデルという印象が強いカラーウェイだが、あくまでatmos提案カラーであり、先行販売が終了した後は国内のナイキショップや大手スポーツショップでも発売されている。発売当初から人気が高く、ほぼリアルタイムでフェイクが出回ってしまった。また、同じタイミングで反転カラーのローカットDUNKが発売されており、そのDUNKとAF1“ATMOS”のカラーを左右色違いで再現したのが、2017年版のCO.JPである、DUNK LOW “Mismatched”である。ちなみに画像の個体は“atmos”ロゴが入ったデュブレが装着されているが、これはオリジナルではなく、オーナーが後付けしたものだ。



Release year : 2001
AIR FORCE 1
Style Code : 630033-044
資料提供 : yusuke_airforce1

SAKURA “UENO”

■ 桜“上野”

原宿と並ぶスニーカーの聖地である上野にて、2005年の3月26日に500足のみ発売されたSAKURA “UENO”。米国で実施されたファン投票で1位に選出され、ボルチモアで限定的に再販（200足限定という情報が有力）されたために厳密な意味での日本限定モデルではなくなったが、その価値は衰えることない。優しいベージュのアップパーにレーザー加工で描かれた“桜”にはゴールドカラーが落としままれ、同じくゴールドに染まるデュブレと共に和の雰囲気を感じ出す。それとは対照的にアウトソールは鮮やかなピンクに染まるが、このカラー表記は“Watermelon”で、日本の夏に欠かせない“スイカ”をイメージしたものだ。そのプレミア性が強調され履くことを躊躇させるが、本来は日本のスニーカーカルチャーと相性の良い、使いやすいカラーウェイに仕立てられたAF1と言えるだろう。



Release year : 2005
AIR FORCE 1
Style Code : 309360-001
資料提供 : Alternate Sneakers